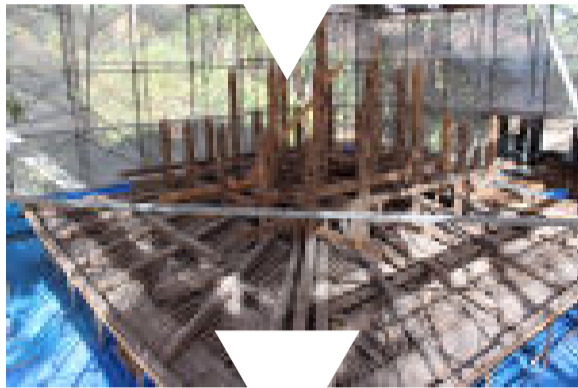
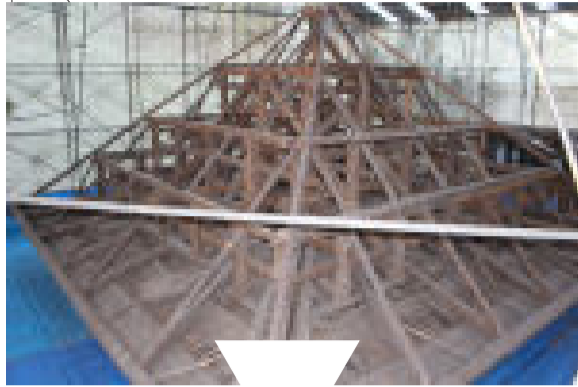


こうじ
工事の
げんば
現場より

今はこんな様子だよ。



12月2週目



こやぐみ やね ほねぐ かいたい すす
小屋組 (=屋根の骨組み) の解体が、あっ！というまに進んでいきま
した。こやぐみ てんようざい かこ べつ ばしょ べつ ようと つか ざい
がかなり見つか、むかし しょくにん ふる ざいりょう たいせ ぐふう
昔の職人さんたちが古い材料を大切にしながら工夫
をしてきたことが確認できます。なか とくがわただなが てい いちく こんりゅう
中には「徳川忠長※邸を移築し建立した」
という記録の裏付けとなる可能性がある材料も。解体からの発見は、ワ
クワクのれんぞく連続です。 ※徳川忠長(1606-1634)・・・徳川家康の孫(2代秀忠の三男)



こやぐみ かいたい せんこう ないぶ ぐうてんじょう かなものとりはず さぎょう おこな
小屋組の解体に先行して、内部の格天井の金物取外し作業を行いました。



たるき かいたい ようす と はず さぎょう
垂木解体の様子。取り外し作業は、まず
ばんづけいた ぶざい ばしょ しめ と
番付板(部材の場所を示すもの)を取り
つけ ざい いた しんちょう とりはず
材を傷めないように慎重に取外し
おこな
を行います。

こやぐみないさいだい ざいりょう おおばりかいたい いどう
小屋組内最大の材料、大梁解体・移動の
さぎょう おも ざいりょう
作業。とても重たい材料なので、チェー
ンブロック*をつか うんぱん
を使い運搬しました。
*滑車とテコの原理を利用して、鎖で重いものを上げ下げ
するための道具

かいたい ばなし
解体こぼれ話



ゆにゅうようくぎ てつ しつ よ さび あさ
輸入洋釘。鉄の質が良く、錆が浅いうえに
さ もくざい あくえいきょう あた
錆びていても木材に悪影響を与えていませ
ん※1。国内での洋釘使用は、鉄の国産化
きどう の めいじ いぜん ゆにゅうもの
が軌道に乗る明治40年代以前は輸入物に
かぎ めいじ いちくじ つか
限られます※2。明治40年の移築時に使
すいさつ
われたものと推察されます。

※1 がいこくさん てつこうせき ふじゆんぶつ すく かくさん
外国産の鉄鉱石はリンなどの不純物が少なく、国産
てつ よ ふじゆんぶつ おお かくさんてつ
の鉄より質が良いとされます。不純物の多い国産鉄
くぎ さんか さび いちじる ふじゆんぶつ
の釘は酸化すると錆が著しくなり、また不純物のた
もくざい あくえいきょう およ
め木材に悪影響を及ぼすと言われます。

※2 ゆにゅうようくぎ かくさんくぎ せいさん あんてい かんとう
輸入洋釘は国産釘の生産が安定しなかった関東
たいしんさいご だいにじ せかい たいせんご りゅうつう
大震災後、第二次世界大戦後にも流通したとさ
られています。